



大久保中だより 5月号

さいたま市桜区五関282 Tel 048-852-3554 Fax 840-1430 令和8年度

同志

校長 横溝 佳昭

夜も7時を過ぎた頃、大久保中学校の正門付近を通った時に気がついた人もいます。励志館(本校の武道場)の2階の剣道場で活動をしている人たちがいます。大久保地区にお住まいの元埼玉県警察剣道師範で教士八段 芳賀 公先生のもとに集う「桜剣友会」の皆さんです。社会体育の活動として週に4回、励志館で剣道の稽古をしています。会には35名位が所属していて、通常は15人程度が集まって活動をしているとのこと。会員の平均年齢はおおよそ60歳。最高齢の方は米寿を迎えているそうです。昨今、学校等の公共施設を活用した夜間の社会体育活動を行っている団体は数多く、生涯学習の概念が広く浸透してきた結果と言えますが、本校の施設をご利用いただいていることでもあります。私個人として心を惹かれるものがありましたので、その一部を簡潔にご紹介させていただきます。桜剣友会の活動は道場の掃除から始まるのですが、会員の多くは社会人ですから仕事等の関係で清掃活動に間に合わない人もいます。それを責める者はいません。開始前に集まり、自主的に掃除に臨むその姿がとても印象的です。一心不乱に玄関の掃除をしている方がいます。砂粒一つ残すことを許さない勢いです。とうに還暦を過ぎた様相の方が清掃活動を通して磨いているものは、玄関なのかそれとも己の魂(心)なのかを傍から想像します。活動後にも掃除をしていますが、誰が何を担当する等の決め事は一切なく、各々が自分のなすべきことを判断し、取り組んだ結果は、水道の周りに一滴の水滴すら残しません。稽古(活動)にもこの会の特徴があります。一般的に、高段者の稽古内容は地稽古(じげいこ:対戦形式の練習)が中心になりますが、桜剣友会は週4回の活動日の内、2回が地稽古で2回は切り返しや基本打ちといった基礎練習だけを行う日としています。多くの方が7段で教士の称号を得ている方も多く、何十年にもわたる剣道の修練を積んでなお「基礎の大切さを忘れない」この姿勢には感慨深いものがあります。芳賀先生の剣道を通じた人間教育の考えの中に「生涯にわたる成長」として、剣道には完成がなく、生涯を通じて自己を磨き続ける必要性が綴られています。この考えに賛同する同志の集いが「桜剣友会」を形作っているのだと思います。

令和8年度の大久保中学校の教育活動が始まって3週間、4月23日には多くの1年生が部活動へ本入部をしました。当然ですが文科省の指導の通り、本校でも部活動への加入は生徒の意思としています。部活には加入をしないで外部のチーム等に所属をして活動する生徒もいます。昭和初期から100年続いて来た学校が担う部活動。数年前にはじまりを見せた大改革の「部活動の地域移行」は、多くの課題を抱えつつも方向性や方策・取組を整理しながら具現化に向けて進んでいます。時代の波に翻弄をされている感のある部活動ですが、そこで生徒が学ぶもの・その価値に十分な教育的な要素がある以上、学校ができる範囲のことを実践して行きたいと強く思います。個人の価値観が優先される時代ですので、部活動へ考え方も様々であるとは思いますが、それぞれの種目・分野を、学年や学級の垣根を越えた仲間同士、部員同士でお互いを高め合いながら生涯の宝物となるような時間を過ごして欲しいと思います。願わくば、それが同志となることを。